

アマダイ通信NO. 51

(Tile fish network letter)



05年 黄葉む季節に

知人・友人各位

今の中国は日本の何時ごろに当たるか？内外で話題になる。今朝の新聞でも高度成長期の1960年頃、とする記事を見た。有人宇宙船を飛ばす点では日本を既に飛び越えている訳だから、庶民の生活レベルが問題になるのだろう。これまでに私が見た、人口の少なからぬ部分を占める内陸中国の農民の生活は、義憤を感じて“国家転覆”を志した、物心ついた50年代の秋田の寒村の域にも達しない。赤貧と言っても、故郷の各戸に井戸水は溢れ、建物としての便所があり、苦勞はしても子供を学校に通わせていた。

◎故郷を環境産業都市に！・・・青春の志の幾ばくかでも

台風一過、秋色が一段と濃くなった9月最後の月曜の朝、豊沢能代市長、加藤八森町長を東大三鷹寮の先輩の吉川同和鉱業社長、国交省の次官級ポストについたばかりの後輩の丸山国土交通審議官に案内することに。同和鉱業の能代港利用、能代・八森への工場誘致で環境産業都市へ！新幹線こまち能代延伸など交通利便の向上、観光、地域振興につながれば幸甚だ。かつて田舎の貧しさに発奮、世の中を変えようと走り回った者として、故郷のため多少とも役に立つのは嬉しい。

が少年の頃、西暦で言えば1950年代から60年代にかけて、秋田の海岸線の北の端に位置する、半農半漁の岩館村は本当に貧しかった。農業と言っても白神山地がそのまま海になだれ込み、平地は乏しく、耕地は狭い。田圃に流れ込む水は清らかだが冷たい。ニシンが獲れなくなって代わりに獲れ出したたハタハタも、乱獲から漁獲を減らしていた。山深く掘り出していた石炭もエネルギー革命で石油にとって代われ、裏山に煙の上がる炭焼きも然り。一升の米を貸し借りし、入る風呂とてなく遠慮しいしい貰い湯する家族があれば、ノンベイの漁師の家には綿の入った布団もなく、我が家を除けば新聞を取る家とて余りなかった。赤貧洗うが如し。そんな寒村の、明治以来続く子沢山の郵便局長の四男に生まれたは、大学や高校に通う姉の教科書や雑誌、小説を片っ端から読み漁る読書好きな、早熟な子供として育った。親から勉強するように言われたこともなく、ただ宿題をするだけ。学校から帰ると野山を走り回り、海に潜り、釣り糸を垂れ、裏山でスキーと、陽が沈むまで遊び回るのが常だった。そんな自由放任の野生児でも二度目の挑戦で何故か東大に受かってしまった。

政治的には晩生だが、多感で無垢な野生児が、この社会が資本主義社会、階級社会であり、貧富の差も階級の差としてあること、東大のしかも法学部出身者が社会的に期待されている役割に気づき、学生運動に走るのは早かった。自らの出自の貧しい農民や漁民の上に立ち支配する、資本家階級の手先になるのではなく、階級を廃絶することで共に豊かになろう！能力に応じて働き、必要に応じて取る社会へ！全世界を獲得しよう！限りなく膨らんだ“妄想”は膨らみ切ってやがて弾ける。妄想が大きければ弾け方も激しい。30代は癒しの期間、40代はリハビリ、50代は慣らし運転？多少とも他人（ヒト）の役に立ちたい！故郷のために！との思いから出発した青春の志の幾許かでもと思っても、大したことはできない。だが、そうであればこそ、少しでも役に立ちたい！



◎先端産業としての環境産業

吉川先輩から具体的な構想を^魚は聞いていたが、何度か表敬訪問した豊沢市長との間ではこれまで具体的な話は無かったようだ。今初めて両者が話し合いに入る。同和鉱業より、再精錬し金銀銅等を取り出す廃携帯電話等の有価物の搬入港を高速道利用で長距離、雪道の青森から能代港に変えたい。小坂精錬所まで運ぶまでもない物を処理する工場を能代地区に作りたい。小坂で処理する汚染土壌を男鹿港から上げているが、一杯なので能代港も使いたい。将来的には韓国、中国、東南アジア等からも有価物を運ぶ拠点にしたいとの申し出があり、行政の指導力発揮の要望も語られる。能代市長も国のリサイクル港の指定を受け、環境産業都市作りを目指して前向きに取り組むと決意表明する。会談が終わった足で八重洲の同和鉱業から霞ヶ関の国交省まで、タクシーを走らせる。丸山国交省国土交通審議官にはリサイクル港指定に絞って助力をお願いする。

リサイクル港に指定されれば話を進め易いと語る市長の脳裏には、大量の産廃を不法に受け入れ、何の処理もせずに廃液を垂れ流し、危険物を野晒しにしたまま倒産、多額の税金を注ぎ込んで処理する羽目になった“能代産廃”に由来する、市民感情の問題があるのだろう。以来、“産廃”と聞いただけで拒絶反応を起こす人がいるのは理解できない訳ではない。しかし廃棄物処理は今や厄介な物を安全に捨てる段階から、地球上の限りある資源を有効活用するために再利用する、有価物として再生する段階に達し、高度な技術を要する先端産業と化し、日本が世界の先頭を走る。謂わば静脈を流れて老廃物を運んで来た血液が、肺胞を経て酸素を含んだ新鮮な血液として再び心臓から動脈を通り全身へ行き渡るように、環境産業というシステムを通して廃棄物が再び有価物として蘇る。静脈産業が動脈産業と化し、その最先端を同和鉱業が走る。その拠点を誘致することで、環境関連の産業の集積につながり、環境産業都市として発展する突破口が開ける。取りあえず荷揚げと運送だけでもかなりの雇用が見込まれ、勿論効果はそれに留まるものではない。

放置されたままの“能代産廃”の産廃も同和鉱業が小坂で処理する話があり、大阪で工場跡地の土壌汚染の事実を隠してマンションを建築・分譲、三菱マテリアルと三菱地所のトップの引責にまで発展した件でも、汚染土壌を処理するのは同和鉱業と聞く。三菱マテリアルでさえ自らの不始末を同和鉱業に頼る。まして“能代産廃”と同レベルで論じるべきではあるまい。気になるなら小坂でも青森港でも、男鹿港でも実情を調査してみればいい。“能代産廃”の産廃処理を同和鉱業が小坂ですることに異を唱えない能代市民なら、同和鉱業による能代港の利活用にも協力を期待できるであろう。我が能代市民はやっかいな物は自分のところで処理するのは困るが、小坂でならいいと考えるほど偏狭ではないだろう。能代市民の先見の明と市長のリーダーシップに期待したい。

◎秋田の冬の味覚・・・河豚とアンコウ鍋、そして


10月初旬だろうか、朝のNHKニュースで下関のフグの初競りで秋田沖の日本海のフグが高値で取引されたと報道されていた。昔から大謀網（定置網）で獲れた大きなフグを家で刺身や吸い物で食べていたが、今は延縄で釣る。みち糸をテグスから河豚の鋭い歯でも切れないワイヤに変えて釣れるようになったが、鱒、鮑、岩蛸同様、乱獲で漁獲量も減り小型になったとのこと。白神フグの独自ブランドで売ればいいのですが、山口まで旅させるのはフグにも漁師にも、東京の消費者にも不幸です。男鹿では活漁で東京に運んでいるとのことで、八森より男鹿の漁師の方が頭使ってビジネスしてるようです。


冬の味覚と言えば先日、神田の老舗の伊勢元で鮫鱈をご馳走になる。鍋のツユは醤油味で酊で甘く、にこごりも共和えも同じ味で？でした。お袋の味は味噌味だったと、田舎の姉に電話したら、鍋で鮫肝と味噌を炒め、鮫鱈の身を入れると、水気の多い魚なので、身から水分が出て丁度いいとのこと。共和えも田舎では味噌味で肉を蒸してほぐし、和えていたと思います。秋田の冬の味と言えばキリタンポ鍋と飯鮭とショツツル鍋のハタハタですが、他に鮫やカスベ（エイ）などもあります。鮫の刺身は絶品ですが時間が経つとアンモニャ臭がひどくなるので、港町でしか食べられません。卵胎生の鮫のお腹を裂いて取り出した炒り卵、茹肉の酢の物も美味です。真鱈の卵のキンピラと刺身、鍋も地酒には最高。鱈と言うと小振りなスケソウ鱈しか想い浮かばず、居酒屋などで鱈チリと称してスケソウを食べる方も多いと思いますが、元々卵を明太子の材料にするだけで、身は食べない、すり身の材料になるだけの魚です。真鱈が獲れなくなって少し出世しただけなのです。

能代でもエコタウン事業、能代港の利活用を巡ってようやく市民レベルでの動きが出てきているようです。あらためてリサイクル事業について同和鉱業の説明を聞く機会を設けたいという話もあります。2月6日には久しぶりに「能代山本フォーラム21」で農業経済の生源寺眞一東大教授（S45年入寮）に、「21世紀の日本農業」について話していただく予定です。秋田の冬の味覚を堪能する機会が何度かありそうで楽しみです。

秋田の味覚問合せ先：能代山本地区観光連盟（能代市役所 商工観光課 観光振興室
電話 0185-89-2179）

◎抗癌剤止めましょう！ゴッドハンドに感謝！


誤診じゃない？のと言ったと奥さんがいう、山川胃腸科医院の山川院長と、僕が診たんだから誤診はないよという、元主治医の河野先輩も残ってくれた、9月末の東大三鷹クラブ第62回講演会の二次会。講師の詩人の天沢退二郎さんが2次会不参加で、の癌に議論集中。晩酌で酔っ払って言ったのをカミさんが真に受けて干場君に言ってしまったと、先ず山川君からエール。

二人の名医の見解は“の元気は奇跡に近い”で一致。大腸癌ステージⅢbの場合治癒する確率は山川君は四割、河野先生は岩波新書の胃癌と大腸癌のように見込み薄という。他臓器に転移する可能性の濃い二年目の終りくらいが山で、医者と薬を信じる、上を向いて歩くことが肝心と河野先輩。個々の患者にとっては常に五分五分であっても、データのにはやばかったんだ。それでも二年目の終わりの山は越えた。昨シーズンは12回だったが、今シーズンは顧問先の建研の石本さん、東作の市村さんと仲間も二人増えるから、できれば毎週、15回ほど日帰りスキーできれば三年目の山？も越す！飲み過ぎ注意で呑気な父さんを貫徹しよう！と、又酔っ払う。


十月初旬に二ヶ月振りに、前回の血液検査の結果を見ながらの雑談だけだが、三楽病院で主治医の阿川先生に診てもらう。腫瘍マーカー、肝機能、コレステロール、血糖、中性脂肪も問題なしだという。週二回、アルコール分0.5%のノンアルコールビールで我慢する、土日の休肝？の成果だろうか？三月の三周年で抗がん剤は止めにしましょうということに。転移なしの目安の二年目終了に続き、完治に又、一歩前進したことになる。転移したリンパ節は三箇所だけで取りきれたのか？転移危険期間を無事経過したのはそう言うことだ。神の手を持つドクターに感謝！



◎最後には死にたくないな？！

診察の二日後、東京 Internet にも関係した IT 業界の草分けの一人で、この夏亡くなった東大全共闘の鈴木優一先輩を偲ぶ会に出席する。山本義隆東大全共闘議長と共に、全闘連（全学闘争連合）を名乗った大学院生のグループの中心的なメンバーだった。60年安保闘争を経験し、あと少しで研究者として旅立つ直前に、も含め100名足らずの勢力で安田講堂に突入した、67年の卒業式粉碎闘争から東大闘争が盛り上がり、足が抜けなくなってしまった。そのまま卒業していれば研究者として名をなしていた連中だったのだが、研究室には残れず、電算機（パソコンではない！）と格闘、揺籃期の IT 業界を立ち上げて行った。

山本さんなど懐かしい顔ぶれが多い。66才と少し早い子供も独立しているようだ。大腸癌が肝臓に転移し、余命二ヶ月と言われ、物理学の本など四冊並行で読みながら亡くなる。直前の検診では何も無いと言われていたのに、腹部に痛みを感じて医者に行ったら、大腸癌が大きくなって腸閉塞を起こし、肝臓にも転移して打つ手がなかったようだ。早期発見が何より大事なのだが。それでも淡々と専門書や哲学の本を枕に死ぬのは鈴木さんらしい。偲ぶ会にはかつての仲間も沢山集まり、追悼文集も作られた。久し振りに顔を見る、同じ全闘連の仲間だった夫人の石川晶子さんもお礼の言葉を述べる。

同じ大腸癌でも生きる者と死ぬ者がいて、何によって左右されるのか？偶然か？それとも意志することか？誰にもわからないとしたら、よく働き、よく学び、よく遊び、潔く死ぬ、要するに自分らしく生きるということか。そして賑やかな出会いの場を最後に提供、遺稿集でも作ってもらって、と言っても通信を編集するだけだから、直ぐ出来る。インターナショナルでも青い山脈でも、賑やかに“葬送の曲”を歌ってもらって黄泉の国に旅立ちたい、そのためには一番最後には死にたくないな、と変なことを考える。

◎2005年 学増OB会のお知らせ

1年に1回は顔を合わせておきたいと思い、今年もOB会を開催します。脳と身体は衰えても、酒量と口数だけは衰えない皆様のために、今回も飲み放題&個室を用意しました。気兼ねなく、飲んで、バカ騒ぎ、日頃のウサを晴らして下さい。ちなみに今回の飲み放題は、久保田・八海山飲み放題コースです！（千寿か万寿か？ 酔っぱらえば同じです）

日時 11月25日（金） 午後6時30～午後8時30分（二次会あり）

場所 新宿三丁目 「轟眞屋 新宿明治通り店」 新宿区新宿 3-13-3 新宿文化ビル B1

電話 03-5367-5441 <http://r.gnavi.co.jp/g375000/>

会費 6,500円（通信費等諸雑費を含む）

申込み・問合せ先 勝見 明（英語科、フリーライター） a-kats@sd6.so-net.ne.jp

tel 03-3624-0922 fax 03-3624-0952

東大全共闘敗残兵の隠れ家？でもあった東大大学力増進会（学内のアルバイト団体）OB会の案内です。高校生対象に学内で模擬試験や講習会、添削指導を行っていた東大文科指導会（文指）はバリケードの中での事業続行が不可能となり、東大闘争中に解散しました。他方、私立高校を借りて中学生相手の事業を行っていた学増はその後も生き延び、受験競争が激化、学習塾が産業化する80年代まで、ストレートには世に入れられぬ若者に、しばしの生活の場を提供し、多彩な人材が羽ばたきました。旧交を温められればと思います。



◎満天の星空に歓喜の叫びがこだまする！

気候、風土も全く違い、宗教も違う7月のシルクロードの旅では、見る物全てが新しかった。中国の内陸深く、大陸性気候で昼暑く夜涼しい新疆では、朝9時から午後1時まで働き、暑い盛りの1時から4時までは昼休み。家に帰り食事と昼寝。4時から8時まで又、働く。エジプトなども同じだ。日中暑く朝晩涼しいので、合理的な働き方なのだ。食事は屋台ですること多い。トルファンのナイトバザールは、羊肉を串刺しにして焼いたケバブで地ビールをやる客で、大賑わいだった。羊肉を焼く煙の渦巻きの中で話しが弾む。水資源に恵まれないので、皿を洗うバケツの中はとでも見られたものではないが、今回初めて屋台で一杯やっても不思議とお腹を壊さなかった。

年の三分の一は中国で暮らす「緑の地球ネットワーク」(GEN)の高見君は、1回お腹壊すと二回目からは大丈夫だと言うが、中国へ行き始めて5回くらいまではお腹を壊した。北京から西へ3百キロ、GENが植樹活動を展開する、衛生状態の悪い山西省の農村地帯を歩き回るせいか？村ではザックのトイレトペーパー1巻を手にも列を離れ、トモロコシ畑やヒマワリ畑に消えればいいが、町ではそうは行かない。トイレ探しに苦労する。かって北京で能代高校同級生の杉山(旧姓佐藤)さんの華僑村の高層マンションで夕食をご馳走になった帰り、タクシーが捉らず歩いている内急にお尻がモゾモゾ、あちこちトイレを探してもみつからない。夜遅くシトシト雨も降り人通りがないのを幸い、マンション街の芝生の奥の植え込みの陰で用を足して、助かったと胸を撫で下ろしたのだが、高見君からは、干場は北京のど真ん中で野グソをしたと今もってからかわれる。

それに公衆トイレを見つけても猛烈に匂い、見ただけで吐き気がする。視覚と嗅覚を麻痺させないと用を足せない。ウルムチからトルファンに向かう途中、風がビュービュー吹き抜ける荒野に、風車が数百基並ぶ広大な風力発電基地がある。見晴らしのいい道の脇に駐車場と公衆トイレがあるが、アマダイは視覚と嗅覚を麻痺させることができず、思わずトイレを飛び出し、行儀悪く裏で立ったまますませた。テンコ盛りの強烈な光景と猛烈な臭気に、便意が負けてしまった。それでも今回は屋台で飲み食いしても大丈夫で助かった。中国もこれで7、8回目、視覚と嗅覚は別として、胃腸は中国人並みに鍛えられたということか？中国のトイレも北京五輪までに少しは改善されるだろうが、有人宇宙船の排泄を上手く処理できても？地上の排泄に苦労するアンバランスな国である。

トルファンのナイトバザールも、11時過ぎると潮が引くように人気がなくなる。雨が少なく湿度が低いので満天の星空が綺麗だ。年のせいか異国でも朝早く目が覚める。いつものようにホテルの周りを散歩する。前日の夜はメインストリートから葡萄棚の並木を歩いてホテルに入った。いい雰囲気だった。夜が明けてその先を探索しようとする、ホテルの入り口で舗装も葡萄棚も途切れ、デコボコの石コロだらけの道と日干し煉瓦の家が続く、野菜を積んだ馬車が行く。山西省の黄土高原の農村の風景と同じだ。一つだけ違うのは道端や中庭にベッドを置いて、6、7時過ぎまで野天のベッドで寝ているのだ。結構な都会のトルファンの中心部、共産党委員会や市役所のビルの連なる中心市街地の集合住宅も、中庭やテラスにベッドを所狭しと並べて寝ている。雨は降らない、エアコンを備えるほど豊かではない、となれば涼しい戸外で寝ようということだ。治安も悪くないのだろう。子作りも満天の星空の下でするのか？頃は7月、夜毎繰り広げられる地上の愛のスペクタクルを、天空の織姫と彦星は如何に？



◎0元の旅？ようやく豚肉が食べられる！

異教国情緒をたっぷり味わって、新疆・ウイグル自治区の区都ウルムチから、5千メートル級の山々連なる天山山脈を東に越え、敦煌へ。その昔は命がけのシルクロードも一っ飛び。夏というのに山嶺は厚い氷河に覆われ、氷の終わった所から薄っすらと緑が始まり、麓に向けて濃さを増す。広大な斜面に人工的な幾何学紋様が見える辺り、点々と集落が散らばる。山に雪がなくなる辺りから緑は薄くなり、終には影を潜め、一木一草とてない岩山が連なる。風に流される砂が斜面に微妙な曲線を象る。男性的な直線の岩山と女性的な流砂の曲線の対称が素敵だ。男は直に女は曲か！男は正直？男は不動？女は流動？女は曲者？雲ひとつない砂漠の空の上で取り留めもないことを考える。山の背が低く、流砂の斜度も緩くなると突然緑濃いオアシスが開ける、敦煌！中学生の頃、井上靖の小説を読み憧れた血湧き肉踊る世界。「敦煌」、「楼蘭」、「天平の薨」、「白ばんば」と、出る度に貪り読んだ井上文学の世界。放課後の教室で革ちゃん！漢字の多い、難しい本を読んでるわね！と憧れのお姉さんに声を掛けられると、頬が火照るのを覚えた憧れの地だ！

空港から莫高窟に直行する。入り口に平山郁夫と池田大作の大きな写真。余り見たくない顔だが、神社のお祭りと同じ、大花の御礼！画伯2億円！名誉会長1千万円！と賑々しく額に掛かる。逆じゃない？大作は10億円じゃないの？今を時めく公明党オーナーの創価学会名誉会長の大作先生が一千万円とは！平山教授が敦煌をネタに沢山稼いでるにしても1千万は少ない。大作先生意外と吝嗇なのか？それとも学会の財政難？話しながら石窟の見事な仏像を見て回る。山西省大同市の雲崗の石窟と並び称される世界遺産だ。数百ある石窟の中で公開されているのは半分にも満たない。更にその中で一般には公開されていないものもある。お昼までの一時間ほどの短い時間で幾つか見終えて、さあ帰ろうという時に45窟の前を通ると扉が開いていて、誰かが叫ぶ。平山画伯の恋人の菩薩だ！普段は閉まっているのだが、特別参観中だという。後ろからついて中に入ろうとするとガイドが制止する。特別拝観料が200円必要だという。一般参観で既に200円払っている。一つだけ見るのにその上200円？鳩首協議、又来るのも大変と皆200円払うことにする。外の土産物屋で聞くと45窟の菩薩は井上靖の恋人で、平山郁夫の恋人は57窟だという。いずれにしろ流麗な曲線で描かれた観音様だ。女は曲線だ！優しさだ？200円払って確認する。飲み代も含め全部込みのツアーなので、これが元を使った最初だ。

敦煌で遅めの昼食を摂る。ここは回教圏ではない。テーブルには豚肉料理も並ぶ。なぜイスラムでは羊は良くて豚は忌み嫌われるのか？アラブの遊牧民にとって豚の毛は織物に適さず、細く短い足では遊牧の長旅もできぬ役立たずだからか？こんなに美味しいのに！昼から白酒を煽る。翌朝西安に飛び昼食後半日観光、兵馬俑は今回はパスし、郊外に車を走らせ、遺跡を見て回る。8時過ぎに大連に着く。海洋性気候だ、緑豊かだが蒸し暑い。煮染まったTシャツを胸までまくり上げたり、上半身裸の短パンで夕涼みをしている。遅い夕食を摂る。テーブルに皿を並べる間もなく、ウエートレスがお土産の売り込みを始め。西安の昼食もそうだった。商売熱心は結構だが、お土産買いにレストランに入った訳ではない！ゆっくり食べさせてよ！この間まで温いビールを栓も抜かずに出してたのに、何て極端にブレる国なのだろう！

連続研究会◆2007年問題への視座～団塊世代は何をなすべきか？

第三回「団塊世代の資産形成と日本経済活性化」…サワカミ投信澤上篤人代表



団塊世代の大量定年退職をめぐる“07年問題”の一環として、50兆円とも言われる団塊世代の退職金の行方と老後資金の運用が関心を呼ぶ。年金の減額が語られる今、少なくなるとはいえ、定年まで勤め上げれば2、3千万円は期待できる退職金は老後の頼りでもあり、どう運用するか（しないか）は夫々にとり大きな問題であると同時に、日本経済にも少なからぬ影響を与える。07年以降、年3兆円ほどの団塊資金が株式市場に向かうと言われるが、行き先によっては再びバブルを来すこともあれば、日本経済の構造改革と更なる発展、余生の安定にも繋がる。虎視眈々と狙う金融資本の狙い通りに動くのか、何もせず預金口座に眠らせておくか？第三の道、独立の運用法があるのか？「兼業・兼居の勧め」、「年金生活・年金財政—もっと働こう」に続き、高い運用効率を上げる団塊世代の投資ファンド代表者の澤上さんに、独自の資産運用につき話していただきます。

● 「さわかみファンド」の8月末の資産残高は1114億円。99年に自ら運用を始めた「サラリーマンのための投資信託」。庶民がこつこつと投資する身近な資産運用を目指す。顧客は5万5千人。平均年齢は41.1歳、30代が最多。6割が毎月引き落としの定額投資。1人当たり平均投資額204万円。「可能なかぎり低コストの投信を提供」と、販売手数料はとらず、信託報酬も残高の年率1.05%と、本格運用の投信では低い。税金がかかる分配はせず、運用効率を上げる方が大切だと考える。株式で運用する1千億円超の日本の投信で過去5年間運用実績がプラスなのは同ファンドだけ。これまでの年平均利回りは6.3%（8月末）。高い安定感を保つ。

※47年 名古屋市生まれ、69年 愛知県立大学卒、松下電器貿易（現松下電器産業）入社、70年 退社してスイスへ、74年 帰国。山一証券で嘱託、80年 ピクテ銀行日本法人代表、96年 さわかみ投資顧問（現さわかみ投信）設立

日時：平成17年11月25日（金） 18時開場、18時30分開会～21時、二次会あり

場所：学会会館本館310号室（千代田区神田錦町3-28 Tel 03-3292-5931）

会費：会員2000円、一般3千円（会場費、軽食・飲み物代、通信費など込み）

申込先：干場 Fax 03-5689-8192 Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎お魚のビジネス・・・三鷹クラブ第63回定例懇談会のご案内

講師の北修爾さん（昭和37年入寮）は、ここ何年か、ほとんどの定例会に姿を見せておられます。超多忙な日程の中を、何とか都合をつけて出席下さっているのではないかと、世話人としていつも感謝しております。聞けば東大入学直後からワンダーフォーゲル部の活動に熱中、部活のため秋には下宿に移り、三鷹に在住したのは実質3ヶ月程度、従って寮生活では8人部屋の起居が思い出に残っているそうです。ただ、父の二郎氏が創業された阪和興業は、当時すでに鉄鋼商社として着々と地歩を固めつつある段階でした。入寮選考にあたった浜田（卓二郎）委員会の面々からブルジョワ社長の息子は入寮すべきでないと、厳しく指摘され粘り強く反論してようやく許可を得たと話しておられました。

北さんは、経済学部を卒業後、通商産業省に入られました。その背景は若い頃苦労して税関勤めを経験された父上が、高文（上級職）→公務員への道に強いあこがれとこだわりを持っておられたからとのことです。通産省でさまざまな要職を在任し、平成5年6月経済企画庁物価局審議官を最後に退官されました。そして、当時の上司のすすめもあり阪和興業に入社、常務取締役役に就任し、ニューヨークにある現地法人に赴任しました。



しかし、北さんを待っていたのは、平穩な第二の人生ではなく、地獄の試練でした。阪和興業は、昭和 50 年代終わり頃から平成のはじめにかけて、財テクの雄として名を馳せ、本業を大きく上回る収益を挙げておりました。バブルの崩壊とともに財テクの牙城はあえなく潰え去り、巨額の債務が残されるに至りました。北さんは急遽日本に呼び戻され、平成 6 年 4 月、社長に指名され、会社再建の全責任を双肩に担うことになりました。それからの毎日、筆舌に尽せぬ御苦勞が続きましたが、社長就任後 8 年を経て平成 14 年 3 月期には、何とか復配に漕ぎつけました。今年 3 月期の決算では主力である鉄鋼の好況もあり、売上高、経常利益とも大幅に向上し、財務体質もさらに改善を果たすことが出来ました。

今回の講演のタイトルは「お魚のビジネス」としました。水産物の部門は阪和の中ではまだまだウエイトは大きくありません。しかし、エビ、カニ、タコ、アジ、サバなど私達が日常親しんでいる食材の取扱いでは、全国でもトップクラスのシェアを占めております。そのあたりのお話をきっかけにして会社経営の方向、そしてまさに地獄の底から這い上がって来た会社再建への生のお話を、御自身の口から聞かせていただけるものと期待しています。（文責 平賀俊行）

日時：平成 17 年 11 月 28 日（月） 18 時 30 分～21 時（終了後、二次会予定）

場所：学学生会館本館 203 号室（千代田区神田錦町 3-28 TEL 03-3292-5931）

会費：5000 円、（会場費、食事・ビール代、通信費など込み）

申込先：平賀・干場 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

有限会社ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎盛況御礼

10 月 4 日の通信 50 号記念加藤登紀子トーク&ディナーショーも、いつも通りのドタバタでしたが、お陰様で予想を上回る大盛況。用意の 85 席では足りず急遽十席以上増やしたり、環境省の小島地球環境審議官が急に小池大臣との会食が入り、参加が遅れたりハプニングもありましたが、結構楽しんでいただけたようです。お陰様で黒字になり、緑の地球ネットワークに 20 万円カンパできました。調子に乗って百号記念まで頑張ろうかと思ってます。今回参加できなかった方は、次回（6 年後？）是非ご参加を！

● 復活三鷹クラブホームページ (<http://www.ne.jp/asahi/mitaka/club/>) に中村英君が当日の映像を載せてくれました。水族館通信（アマダイ通信前身）1～10 号も載ってます。

◎最後に！劉洪才って知ってる？

11 月 4 日、朝の NHK ニュースで、見たことのある顔の中国人が、対日外交方針を発表している。中共中央対外連絡部副部長の劉さんだ。4 月末の北京での、高見君の「僕らの村に杏が実った」の出版記念パーティで、乾杯の音頭を取ってくれた人だ。通信送ってくるから読んでくれて、日本の草の根の意見として多少参考になってたら、と思うと面白い。それに緑の地球ネットワークの高見君のこれまでの努力、中国人脈はすごい。日本のためこれまでも多いに役立つ筈。外交関係だけでなく、共青团、総工会（労働省、労組）でも表舞台で活躍する中国の友人がドンドン出て来る。更に面白い。中国ビジネスに関連する企業にも彼の経験と人脈が大いに役立つのではないだろうか？再見！